MITSUBISHI ELECTRIC

三菱電機パッケージエアコン別売部品

※据付け前に本説明書と室内ユニットの据付工事説明書をよくお読みください。

形名 PAC-SJ61DM PAC-SK20DM

厨房用天吊タイプドレンアップメカ据付工事説明書

安全のために必ず守ること

- 据付けは、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの。
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、軽傷又は家屋・家財などの損害に結びつくもの。

- 据付け完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、お客様に「安全のために必ず守ること」や使用方法、お手入れの仕方などを説明し、本書をお渡しください。
- この据付工事説明書は取扱説明書とともに、お客様で保管いただくように依頼してください。
  また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しいただくように依頼してください。

<メンテナンスについて>

ドレンアップメカの内部清掃は、3ヶ月に1回程度行ってください。保守点検を実施しないと、油やごみにより、ドレンポンプが詰まり、空調機の停止や水漏れに至るおそれがあります。
メンテナンスはお買い上げの販売店もしくは専門の業者に依頼してください。

<使用環境について>

次のような場所では使用しないでください。ドレンポンプが詰まり、空調機の停止や水漏れに至るおそれがあります。
また、ガスや油の飛沫が周囲に留まると発火・火災及び機器の変形・腐食・破損の原因になります。

- 小麦粉・うどん粉・そば粉などの粉が浮遊する場所
- 硫黄系ガス・塩素系ガス・酸性・アルカリ性の雰囲気の場所
  <酸性の溶液・特殊スプレーを使用する理/美容院・温泉地・機械工場など>
- 酢酸を大量に使用する場所
- 火気・熱気・油などを直接吸い込むおそれのある場所
- 油の飛沫・蒸気の多いところ
- 精密機器や設備、商品など濡れて困るものの上
- 調理する場所の真上

⚠警告

据付けは、販売店又は専門業者に依頼する。	据付けは、この据付工事説明書に従って確実に行う。
●お客様自身で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電・火災などの原因になります。	●据付けに不備があると、水漏れや感電・火災などの原因になります。

●据付け・電気工事をする前に

⚠注意

冷媒配管の断熱は結露しないように確実に行う。	ドレン配管は、据付工事説明書に従って確実に排水するよう施工し、結露が生じないよう保温すること。
●不完全な断熱工事を行うと配管など表面が結露して、露たれなどが発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因となります。	●配管工事に不備があると水漏れし、天井・床・その他家財などを濡らす原因となります。

1.付属部品のご確認

※下記部品が付属されておりますので、取付け前に確認ください。

①ドレンアップメカ	②アタッチメントA	③アタッチメントB	④取付ネジ	⑤VP-20管	⑥パイプカバー	⑦ドレンホース	⑧ファスナー	⑨L字管(ガス管)	⑩L字管(液管)
×1	①ドレンアップメカ 取付用金具 ×1	リアパネルドレン 貫通部別ピース ×1	①ドレンアップメカ 取付用 ×6 予備 ×4	×1	⑤VP-20管 断熱用 ×1	×1	×2	×1	×1

⑪断熱材A	⑫断熱材B	⑬断熱材C
6t×220×80 (内側巻付用) ⑨⑩ L字管と現地配管断熱用 ×2	3t×250×120 (外側巻付用) ⑨⑩ L字管と現地配管断熱用 ×2	3t×150×30 ⑦ ドレンホース断熱用 ×1

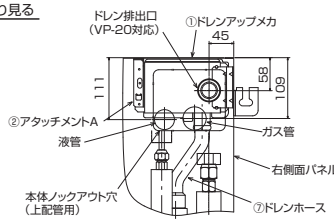
2.ドレンアップメカ取付状態図

- この①ドレンアップメカは、室内ユニット内部に取り付けて使用するものです。
- ①ドレンアップメカ取付けにより、ドレン配管・冷媒配管ともに上側の取出しとなります。
- ①ドレンアップメカ取付けは、室内ユニットを吊り込む前に行う方が容易にできます。

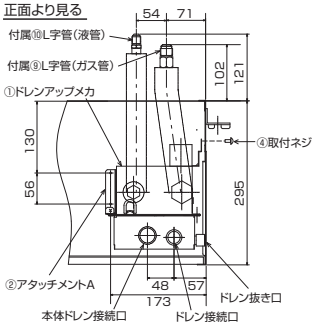
＊詳細は室内ユニットの据付工事説明書を参照してください。

単位(mm)

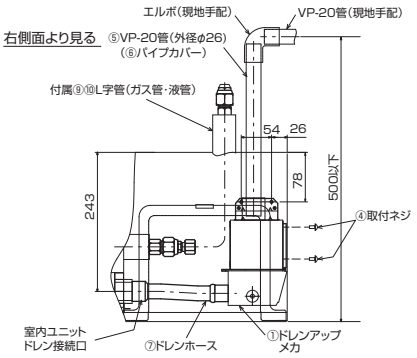
天面より見る



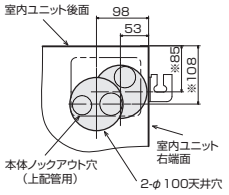
正面より見る



右側面より見る



天井穴位置



上図において※の寸法は、室内ユニットと後壁との距離が5mm以下の場合を示します。

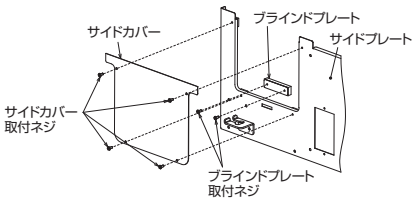
室内ユニット形名	⑨L字管(ガス管)	⑩L字管(液管)	ドレンアップメカ形名
PCZG-P2MHA12以降	φ12.7	φ6.35	PAC-SK20DM
PC-RP.HA10以降	φ15.88	φ9.52	PAC-SJ61DM
PCFY-P.HMG3以降			
PCZG-P.MHA8～11			
PCZG-P3～5MHA12以降			

3.ドレンアップメカ取付け

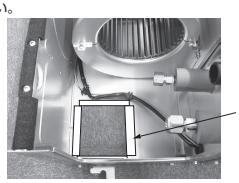
＊ 据付作業は、室内ユニット天面側を下にして作業してください。
作業する際に意匠面、フィルター面を傷つけないよう注意してください。

1.吸込グリルとサイドカバーをとりはずす。
(室内ユニットの据付工事説明書を参照)

2.サイドプレートのブラインドプレートをとりはずす。
(とりはずしたネジはドレンアップメカ取付けの際に再使用します)

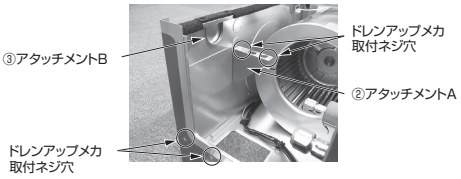


3.室内ユニット天面側ノックアウト穴を開け、周囲にテープを貼り付ける。
＊ ノックアウト穴を開ける際は、ユニットをひっくり返さずリアパネルを下にして立てて作業してください。立てる際に意匠面、フィルター面を傷つけないよう注意してください。

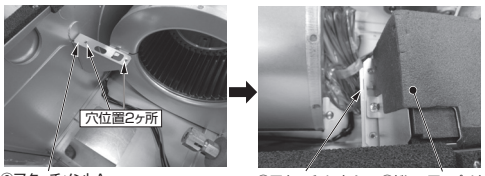


4.付属②アタッチメントAをリアパネルに④取付ネジ(2本)で固定する。

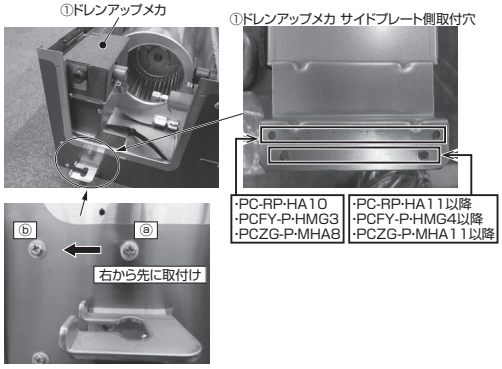
5.あらかじめ室内ユニットに付いていたアタッチメントをとりはずし、
付属③アタッチメントBをリアパネルに取り付ける。
(取付ネジは再使用する)



6.①ドレンアップメカを②アタッチメントA側に④取付ネジ(2本)で固定する。



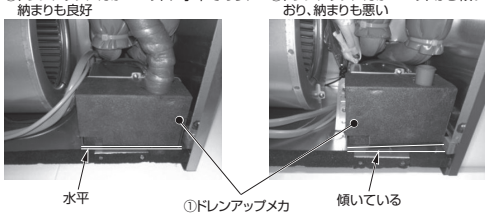
7.サイドプレート側については、下図ⓐ→ⓑの順に④取付ネジ(2本)で固定する。
※サイドプレートへの取付位置については室内ユニットの形名によって違いますのでご注意ください。
(間違った位置に無理やり取り付けようとすると①ドレンアップメカが傾くおそれがあります)



〈上から見た図〉

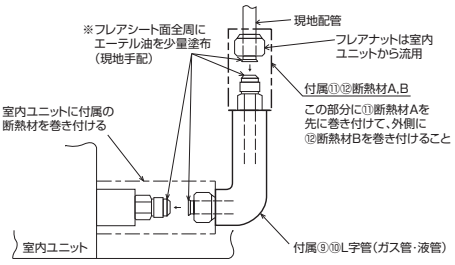
(正常な取付けの場合)
①ドレンアップメカがユニットに水平であり、納まりも良好

(誤った取付けの場合)
①ドレンアップメカがユニットから傾いており、納まりも悪い



4.冷媒配管工事

＊配管手順詳細は、室内ユニットの据付工事説明書を参照してください。
【室外ユニットのストップバルブは全閉のまま】
1.付属⑨⑩L字管(ガス管・液管)のフレアシート面にエーテル油(現地手配)を塗布する。
2.室内ユニットのフレアナット及びキャップをとりはずす。
3.室内ユニット側接続部のフレアシート面にエーテル油(現地手配)を塗布する。
4.付属⑨⑩L字管(ガス管・液管)を素早く接続する。
5.現地配管とりはずしたフレアナットをはめてフレア加工する。
6.現地配管と付属⑨⑩L字管(ガス管・液管)も同様に接続する。
7.各接続部に断熱材を巻き付ける。
【冷媒回路完成後】
8.室外ユニットのストップバルブサービスポートロから真空引きを行う。
9.上記ストップバルブ(液・ガス共)を全開にする。
＊ストップバルブの取扱い方は、室外ユニットに表示してあります。



5.ドレン配管工事

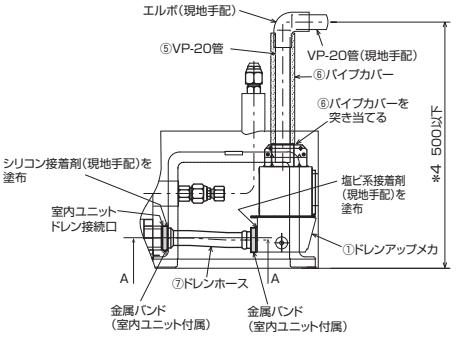
＊配管手順詳細は、室内ユニットの据付工事説明書を参照してください。

1. 付属⑤VP-20 管を①ドレンアップメカのドレン吐出口に塩ビ系接着剤(現地手配)を塗布して差し込む。(差し込み代　30 ㎜)
2. 付属⑤VP-20 管と現地ドレン配管を 90°エルボなど(現地手配)を使用し接着固定する。
3. 付属⑥パイプカバーを⑤VP-20 管に巻く。
4. 室内ユニット付属の金属バンド 2 個を付属⑦ドレンホースに通す。
5. ①ドレンアップメカと室内ユニットドレン接続口に、下図のように指定の接着剤(現地手配)を塗布する。
6. 付属⑦ドレンホースを①ドレンアップメカに取り付ける。その際、①ドレンアップメカの接続口先端の凸部が付属⑦ドレンホースの凹部に合うようにする。
   次に付属⑦ドレンホースを室内ユニットドレン接続口にねじれないように取り付け、その間に隙間がないように突き当てる。
7. 付属⑦ドレンホースが外れないように室内ユニット付属の金属バンド 2 個で①ドレンアップメカと室内ユニットドレン接続口を締める。

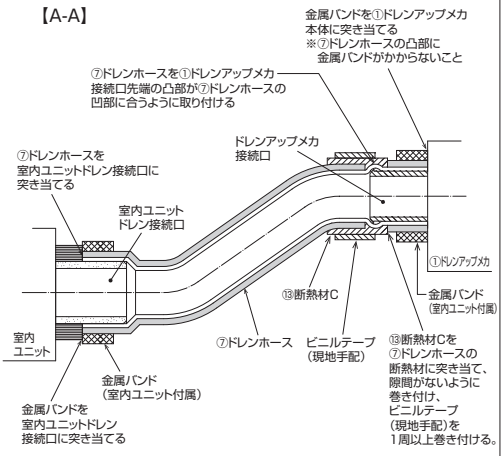
＊1 金属バンドは、電動ドライバーなどで締めすぎないでください。
　接続部が破損するおそれがあります。
＊2 金属バンドはフィルターにあたらないようにしてください。
8. 付属⑦ドレンホースの透明部に付属⑬断熱材Cを突き当て、隙間がないように巻き付け、はがれないようにビニルテープ (現地手配)を 1 周以上巻き付ける。

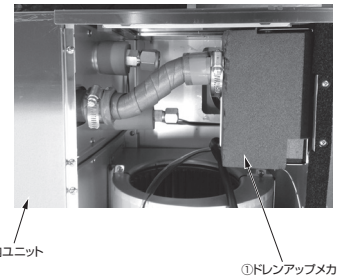
＊3 ①ドレンアップメカから外部に至るその間で、ドレン配管は全て断熱を施してください。

右側面より見る　　単位(㎜)



【A-A】

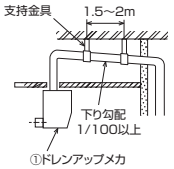


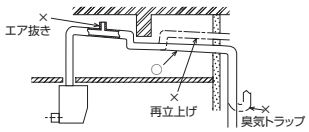


【ドレン配管工事は下記項目を厳守してください】

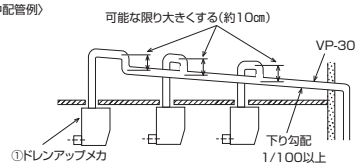
- ドレン揚程は、＊4 500㎜以下としてください。
- 排水側(室外側)が下り勾配(1/100以上)としてください。
- 途中にトラップや山越えを作らないでください。
- 横引きは、20m以下にしてください。
  また、途中に支持金具などを設けて波打ちを無くしてください。
- エア抜き管は、絶対につけないでください。
  ドレンが吹き出るおそれがあります。
- 硬質塩ビパイプ一般管VP-20(外径ø26)を使用し、接続部は塩ビ系接着剤を塗布して漏れのないようにしてください。
- 市販の断熱材(発泡ポリエチレン比重0.03/肉厚9㎜以上)を巻いてください。
- 排水口部の臭気トラップは設けないでください。
- 配管の出口は、臭気の発生するおそれのない場所としてください。
- 配管は、イオウ系ガスの発生する下水溝に入れないでください。
- 集合配管はVP-30程度としてください。また、①ドレンアップメカから立上げた配管の出口部より約10㎝低い位置に集合配管がくるように施工してください。

<注意事項>
- ①ドレンアップメカ取付けの場合、冷媒配管及びドレン配管は上側取出しのみとなります。
- ドレン配管の出口高さは、本体下面から必ず500㎜以下としてください。
- ①ドレンアップメカと室内ユニットを接続するホースは下り勾配となるように取り付けてください。





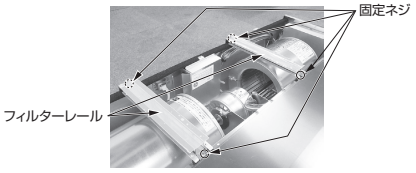
〈集中配管例〉



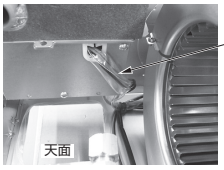
6.電気配線工事

＊室内ユニットの据付工事説明書も併せて参照してください。
＊電源がOFFであることを確認して作業してください。

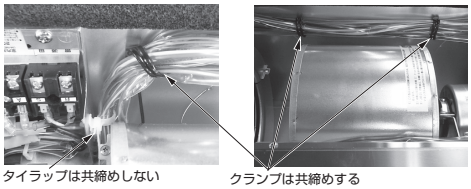
1.フィルターレールをとりはずす。



2.ドレンポンプとドレンセンサーのリード線を室内ユニット天面に這わせる。

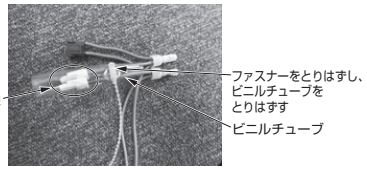


3.端子台カバーの下を這わせ、タイラップは共締めせず、クランプは共締めする。



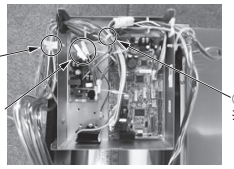
【PCFY-P・HMG形の場合】

4.ヒーター中継線のファスナーをとりはずし、ビニルチューブをとりはずす。

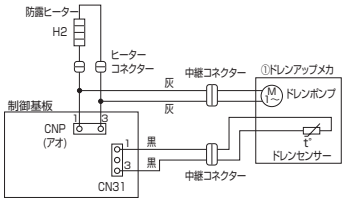


5.電気品箱を取り出し、室内ユニット制御基板のCNP・CN31・H2(防露ヒーターリード線)に挿入されているコネクターをとりはずす。

6.タイラップにドレンポンプとドレンセンサーのリード線を通し、⑧ファスナーでポンプリード線とセンサーリード線と電気品箱内のリード線を共締めする。



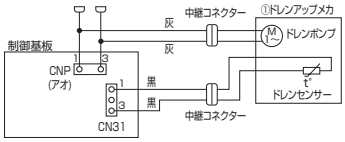
7.室内ユニット制御基板のCNPにポンプリード線を接続し、ヒーターコネクターにヒーター中継線を接続し、CN31にドレンセンサーリード線を接続する。



8.電気品工事が完了したら電気品箱・電気品箱カバー・フィルターレールなどをもとどおりに取り付ける。

【PC-RP・HA形、PCZG-P・MHA形の場合】

4.電気品箱を取出し、室内ユニット制御基板のCN31に挿入されているコネクターをとりはずす。
5.タイラップにドレンポンプとドレンセンサーリード線を通し、⑧ファスナーでポンプリード線・センサーリード線・電気品箱内のリード線を共締めする。
6.室内ユニット制御基板のCNPにポンプリード線を接続し、CN31にドレンセンサーリード線を接続する。



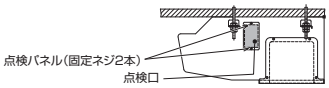
7.電気品工事が完了したら電気品箱・電気品箱カバー・フィルターレールなどをもとどおりに取り付ける。

＊機種シリーズにより制御基板に接続するコネクターの位置が上図と異なる場合がありますが、確実に、CNP・CN31コネクターに接続してください。

7.試運転

＊試運転により排水が確実に行われていること、各接続部からの水漏れのないことを確認してください。
＊室内ユニットの据付工事説明書も併せて参照してください。

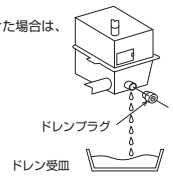
1.注水作業
〈1〉サイドプレートの点検パネルをとりはずす。
〈2〉点検口より約1リットル注水する。



2.試運転
〈1〉電源を入れる。
〈2〉リモコンを　試運転　に切り換える。
〈3〉リモコンの　運転切換　ボタンを押して冷房にする。
　＊①ドレンアップメカが作動して排水します。
〈4〉排水確認する。
〈5〉リモコンの　運転／停止　ボタンを押して試運転を解除する。
〈6〉電源を切る。

3.確認後、部品をもとどおりに取り付ける。

＊暖房シーズンにドレンアップメカを取り付けた場合は、必ずドレン抜きを行ってください。
また、ドレン抜き完了後はドレンプラグをもとどおりに差し込んでください。



三菱電機株式会社　静岡製作所　〒422-8528 静岡市駿河区小鹿3-18-1　☎(054)285-1111(代表)